

19日
(日)

『楽しいグッズ製作』が行われ、日食メガネやミニロケットを夢中で製作していました。また、輝北天球館西井上館長の『講演会』も行われました。



フィルムケースを利用したミニロケットを夢中で製作



親子で日食メガネを製作



日食の楽しみ方などを講演する輝北天球館西井上館長

20日
(月)

『輝北高原 森のウォーキング』が行われたほか、輝北天球館内では『星空コンサート』が行われ、来場者は落ち着いた雰囲気の中で心地よい音楽に耳を傾けていました。



約120人が参加した森のウォーキング



輝北天球館内での星空コンサート

21日
(火)

特設ステージで地元音楽家の演奏や兄弟デュオ『Doki Doki』（ドキドキ）の演奏などが行われました。最後にはレーザー光線ショーが行われ、会場は幻想的な雰囲気に包まれていました。



会場が一体となったDokiDokiの演奏



鹿屋オーケストラの演奏



レーザー光線ショーと花火

22日
(水)

『観測会』が行われたほか、『鹿屋の「食」おたのしみ昼食会 & 特産品販売』には多くの方が行列を作り、日食丼やかのや黒豚カレーなど『鹿屋の食』を堪能していました。



人の体で日食のしくみを説明



輝北産の材料を使った日食丼をほおぼる子どもたち



特設テント内で説明に耳を傾ける参加者

輝北天体フェスタ

2009 in かのや

7月19日(日)から22日(火)にかけて、輝北うわば公園で、「輝北天体フェスタ2009 in かのや」が開催されました。
このイベントは、国内では46年ぶりとなる皆既日食に併せて、輝北うわば公園で部分日食を観測しようという行われたもので、県内外から多くの人が訪れました。
日食当日22日の観測会には、曇り空の天気のため約1,100人が来場しましたが、会場全体が濃霧に包まれてしまいました。
訪れた人は、日食のピークの時間になると、少しでも太陽が見えないかと空を見上げましたが、残念ながら日食を見ることは叶いませんでした。
また、特設テント内では、日食のしくみなどの説明を行うなど、子どもたちの質問や疑問にスタッフが丁寧に答え、参加者は、熱心に耳を傾けていました。



▲輝北町上百引で撮影した部分日食(午前11時2分)
(月に隠れて、太陽直径の約96%が欠けてみえている様子)

▼濃霧の中、少しでも太陽が見えないか探す子どもたち

